

馬産地ライター村本浩平の 2020 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 2 | 6.23 [火] ▶ 7.30 [木] 開催分

6.30
[火]

リオンディーズ賞
【栄冠賞 [H2]】

初年度
産駒
デビュー

父キングカメハメハ、母シーザリオ(母の父スペシャルウィーク)の7歳馬。その血統背景だけでなく、半兄のエピファネアの活躍もあって注目を集めた2歳時のメイクデビューを優勝。1戦1勝で臨んだ朝日杯FSでも勝利をおさめ、GⅠ初勝利をあげただけでなく、その年のJRA最優秀2歳牡馬にも選出されます。この経歴からすると、早熟の天才馬といった印象も受けますが、仕上がりの早さも重要視されている生産地では好意的に受け入れられたようで、繋養初年度には日高管内では最も多い191頭の繁殖牝馬を集めており、本年度も早々に満口となりました。今年、デビューを迎える初年度産駒にも、父譲りの完成度と、スピード能力の高さが遺伝されていると評判になっています。

7.2
[木]

ミッキーアイル賞
【グランシャリオ門別スプリント [H2]】

初年度
産駒
デビュー

父ディーピンパクト、母スターアイル(母の父ロックオブジブラルタル)の9歳馬。2歳時のメイクデビューでは2着に敗れるも、続く未勝利戦で2歳芝1,600mの日本レコードを更新。3歳を迎えてからもその卓越したスピードを武器に快進撃を続け、重賞2勝を含む4連勝で迎えたNHKマイルCでGⅠ初制覇を飾ります。古馬となってからは勝ちあぐねるレースも続きましたが、5歳時のマイルCSでGⅠ2勝目をあげるなど、ディーピンパクト産駒の中でも芝のマイル戦で秀でた活躍を残しました。今年、デビューを迎える初年度産駒にもその傾向は遺伝されている一方で、父譲りのスピード能力はそのままに、父よりも距離適性を広げていくような産駒の評判も聞かれています。

7.15
[水]

アルアイン賞
【星雲賞 [H3]】

新種牡馬

父ディーピンパクト、母ドバイマジスティ(母の父Essence of Dubai)の6歳馬。2歳時に新馬戦、千両賞を勝利してオープン入りを果たすと、3歳時の毎日杯で初重賞勝利。続く皐月賞は9番人気ながらも、その年のマイルCSを優勝するペルシアンナイトを差しきって優勝。勝ち時計の1分57秒8はレースレコードともなりました。その後は距離を問わずに芝重賞戦線で好走を続けて行き、5歳時の大阪杯では同世代の菊花賞馬であるキセキをクビ差交わしきって勝利。この時も9番人気、しかもクビ差での勝利と、2度にわたって人気薄での大仕事をやってのけました。良血馬らしい能力の高さはさることながら、大一番で見せた勝負根性も産駒へと伝わっていきそうです。

7.16
[木]

シニスターミニスター賞
【ノースクイーンカップ [H2]】

父Old Trieste、母Sweet Minister(母の父The Prime Minister)の17歳馬。現役時の成績は13戦2勝ながらも、唯一のGⅠ勝利となったブルーグラスSでは、2着に12馬身3/4もの差をつけて快勝。そのパフォーマンスが評価される形で、2008年シーズンから日本で繋養されず。産駒はダートで頭角を現していくと、2年目産駒となるインカンテーションがレパードSを勝利して、産駒初となる重賞制覇を果たします。昨年はヤマニンアンプリメがJBCレディスクラシックを含む重賞3勝の活躍で、ホッカイドウ競馬でもコーラルツッキーが交流重賞エーデルワイス賞を制するなど、昨年の地方サイアーランキングでは自己最高位となる4位にランキングされています。

7.23
[木・祝]

サトノクラウン賞
【王冠賞 [H2]】

父Marju、母ジョコンダII(母の父Rossini)の8歳馬。デビューから3連勝で弥生賞を優勝。一躍、その年の牡馬クラシック戦線の主役へと躍り出ます。4歳時の京都記念で約1年ぶりとなる勝利をあげると、その年の暮れには2度目の海外遠征となる香港ヴァーズでは、世界的名馬ハイランドリールをゴール前で交わしてGⅠ初制覇。5歳初戦となる京都記念も勝利すると、宝塚記念ではキタサンブラック、ミッキークイーンといった強豪を退けて、GⅠ2勝目をあげます。芝長距離での安定した成績、そして現在の主流血脈であるサンデーサイレンスや、キングカメハメハを持たない血統背景も種牡馬としての人気へと繋がり、繋養初年度となる昨年は、207頭もの繁殖牝馬を集めました。

7.28
[火]

ブラックタイド賞
【ブリーダーズゴールドジュニアカップ [H1]】

父サンデーサイレンス、母ウインドインハーヘア(母の父Alzao)の19歳馬。ディーピンパクトの全兄でもあるブラックタイドは、セレクトセールにおける落札額、そして牧場での評価も兄の方が上でした。コスモバルク、キングカメハメハ、ダイワメジャー、ハーツクライと錚々たるメンバーがしのぎを削っていたその世代のクラシック戦線では、スプリングSを優勝するなど、血統馬らしい能力の高さを示していきます。現役時にGⅠタイトルこそ縁がありませんでしたが、種牡馬入り後は毎年のように重賞競走で活躍する産駒を輩出し、3世代目の産駒となるキタサンブラックが、菊花賞制覇を含むGⅠ7勝の活躍。地方でもコンスタントに重賞馬を送り出しています。

今シーズンは特別競走13レースも 「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 6/24 [水] メイショウボーラー賞
- 7/ 9 [木] ダノンバラード賞
- 7/21 [火] モーニン賞 新種牡馬

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

